

「名松線一部廃止方針」 地元が理解するまで努力する！

本部は12月7日、「申」第17号の業務委員会を開催しました。

10月29日、マスコミは「J R 東海は、名松線の家城～伊勢奥津間（17.7km）を廃止し、バス輸送に切り替えを決定、地元自治体と協議を始めた」などと報じました。廃止理由については「険しい地形のため速度制限や雨量規制が厳しく、廃止区間は台風18号の影響でバス代行輸送を実施している区間で、復旧しても台風18号以下の風水害で長期の運転規制が起こる。バスの方が安定輸送が行える。利用者が減少した」などとも報じました。

本部は、「一部であれ路線廃止の方針は、労働協約第27条（経営協議会の付議事項）2項(1)事業の運営計画に関する事項に該当し、路線の廃止は、同条1項(1)業務の合理化ならびに能率の向上に関する事項に該当するもので、会社には労働組合への説明責任があるとして申し入れを行っていました。会社の回答と主な議論は以下の通りです。

「申」第17号(名松線一部廃止方針に関する申し入れ)

1. 経営協議会の付議事項である案件を説明しないのは、重大な労働協約違反である。会社の見解を明らかにすること。

【回答】

経営協議会等の開催については協約の定めにもとづき適切に対応する。

2. 名松線一部廃止方針についてその理由を説明すること。また、今後の廃止に関する手続きや廃止後の社員の運用などについて説明すること。

【回答】

平成21年10月8日の台風18号によって、名松線は39ヵ所において盛土流失、土砂流入が発生し、大きな被害を受けた。松坂・家城間は比較的軽微な被災であったため、15日から所定運転を再開したが、家城・伊勢奥津間は甚大な被害を受けており、現在もバス代行を継続している。

このたびの被災後、路盤のみならず周辺の状態を含めた慎重な調査を実施した結果、地形・構造物の制約のみならず、山林を含めた周辺部からの鉄道設備への影響が大きくなっていることが改めて明らかになった。

このため家城・伊勢奥津間については当面バス代行を継続していくが、今後も名松線で行っている松坂・伊勢奥津間の旅客輸送を引き続き当社が担っていくため①松坂・家城間は鉄道で、家城・伊勢奥津間はバスでの輸送とすること。②現行の運賃等の考え方は維持していくこと。との考え方を関係自治体等の提案し、理解が得られるよう取り組んでいるところである。手続きや社員の運用の話をするのは尚早である。

3. マスコミは名松線一部廃止方針について「沿線自治体や地元住民は、突然の発表に困惑している」とも報じている。これは事前に沿線住民や利用者の声を聞かず、会社の都合だけで決定したことの表れである。会社の見解を明らかにすること。

【回答】

10月28日に関係自治体等に対し当社の考え方を提案したものであり、理解を得られるよう取り組んでいるところである。

4. 一部であれ路線営業の廃止は、J R 東海が民間企業とはいえ、公共交通機関としての社会的使命を放棄するものとする。会社の見解を明らかにすること。

【回答】

今後も名松線で行っている松坂・伊勢奥津間で行っている旅客輸送を当社が担っていく考えである。

労働組合に説明しないのは協約違反だ！

組合：労働協約にある経営協議会の27条付議事項2項の(1)事業の運営計画に関する事項に当たらないのか。

会社：関係自治体への説明の段階であり決定事項ではないので問題はない。

組合：今日の業務委員会はどういう付議事項にあたるのか。

会社：その他会社が必要と認める場合である。

組合：関係自治体へは期限を設けて理解を求めているのか。

会社：期限は設けていない。

組合：理解を得られなければどうなるのか

会社：今は理解を得られるように努力しています。

組合：鉄道は補修に着手しないのか。

会社：方針に逆行することになるので補修には着手しない。逆行することはない。

組合：それでは、実質的に決まっていることと同じではないか。

会社：理解を得られるように努力している。当社の輸送は安全安定輸送である。線路だけ直せばよいというものではない。

組合：山の管理はどこがしているのか

会社：県と国などである。

組合：国や県に治山事業を行うよう要請しているのか。

会社：治山事業が必要なことは国・県には伝えている。

組合：治山が進めば線路を直すのか。

会社：仮定の話はしない。バスによる輸送のほうが安全に安定して輸送できると提案している。雨が降っても道路は遮断されなかった。

組合：近くの道路が遮断されないのに名松線だけ被害を受けたのは日頃の沿線整備が不十分だったからではないのか。

会社：今回ヘリコプターを飛ばして初めて山の状態が酷いことがわかった。

組合：新聞によると年間収益4,000万円に8億円の維持管理費がかかっているとなっているが赤字も理由になるのか。

会社：コストは関係ない。家城・伊勢奥津間は安全を確保できない。

組合：現在、バス代行はどこがやっているのか。

会社：三重交通に委託している。

組合：バス移管しても赤字である。赤字覚悟で移管していくのか。

会社：当社が責任を持ってやっていく。

組合：今日初めて正式に提案を受けた。線路が剥がされることは鉄道に携わる者として悲しく思うし、労働組合として職場がなくなったり、異動など不安を感じている組合員を放置できない。地元の要望なども聞き、持ち帰って検討し再度申し入れる。

以 上